

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2770105464		
法人名	アンドライフサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北花田		
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119		
自己評価作成日	平成31年10月15日	評価結果市町村受理日	平成32年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、近隣の保育園と毎月交流を行い、コミュニケーションを図る事で笑顔が見られる。 ・敬老会には家族様にも参加して頂き、皆で作った作品を観たり、催しを楽しんで頂いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を「安心家族、ゆっくり穏やかに笑顔ある暮らし」-利用者さんに喜んでいただけるサービスの提供-とし、利用者、家族本位の介護を第一としている。年1回家族アンケートを実施して、満足と意向を把握し、意見に沿って改善に努めている。不穏になるからという理由で、利用者が参加しない防災訓練を行う施設もあるが、ここでは車椅子の人も含めて利用者全員が参加して年2回避難訓練を行っているほか、テーマを決めて毎月のように訓練や確認、研修を行って、防災意識を高めている。当事業所は開設後15年以上の年月が経ち、重度介護者が多くなっているが、それを理由にしないで毎日散歩し、時々車を使つての遠足や、利用者一人ひとりの行きたい所へ行くなどの外出支援を大切にしている。職員間、職員と利用者間の仲が良く、穏やかな笑顔ある暮らしが営まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げ、管理者と職員は共有し、実践に繋げている。	理念は事務所の各階に掲げているだけで、それ以上の取り組みは特別していないが、わかりやすい内容なので、職員は日常生活の中で自然に共有し実践している。理念は重要事項説明書に明記され、フェイスブック、インスタグラムで発信して広く周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域との交流で繋がりがりながら暮らし続けられるよう支援している。	自治会に加入し、ふれあい喫茶に行っている。毎年事業所が主催する夕涼み会には、地域から80人以上の参加がある。近くの保育園児が毎月来て、歌や踊りを披露してくれたり、利用者と一緒に工作したりして楽しんでいる。ほかにも種々のボランティアを受け入れたり、神社の祭りに参加したり、地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流を通じて、地域の人々にも認知症の理解や支援方法を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取組等について、利用者、家族、地域住民からの意見を参考に取り組み、状況の報告を行い、サービス向上に生かす話し合いを行っている。	自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、他施設管理者、家族、利用者が参加して、2か月おきに各フロア持ち回りで会議を開いている。会議では、日々の暮らしの様子をビデオで視覚的に報告して好評である。議事録もわかりやすくまとめてフロア玄関に掲示している。家族への案内は毎月の通信で知らせていて、家族の参加が多くなるようにイベント後に開催するなどの工夫を重ねている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの向上に向けて、問題点や事業所の実情についても相談をし、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営上の疑問点は、何でも区の担当課に聞くようにしている。キャラバンメイト養成講座などの啓発イベントに、地域包括支援センターや事業者連絡会などを通して協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組む為、拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、具体的な行為を正しく理解し、ケアに努めている。	玄関とベランダは安全上施錠しているが、エレベーターも含めて、利用者は自由に各フロアを往来している。身体拘束適正化の指針作成、年2回の研修、3か月に1回以上の適正化委員会の開催は実施され、事例検討を繰り返して職員の意識も高い。現在、身体拘束に該当する事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見過ごされる事がないよう、申送りや職員ミーティングで意見を出し合い、注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、ミーティング等で意見交換をする事で学ぶ機会を持ち、活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点が残らないよう、利用者や家族等に十分説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート、家族会、運営会議を通して、意見や要望が表せる様機械を設け、運営に反映させている。	年1回の家族アンケートは、答えやすい内容に工夫しており、家族の意見もよく出る。出された意見は検討して改善に努め、結果をフロアに貼り出している。家族会も行い、食事業者を代える時には試食してもらい、意見を聞いて参考にした。家族とは来訪時に話すほか、最近ではライン、インスタグラムやフェイスブックも使って、事業所のことを理解してもらうようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、職員ミーティング等で職員の意見や提案が反映できるように取り組んでいる。	フロア毎のミーティングを月1回行って、できるだけ全員が集まれるように18時からとしている。運営に関すること、ケアに関する話を話している。職員から出された意見は、フロアリーダーと管理者の管理者会議や、法人運営会議(グループホーム、サービス付き高齢者住宅、会社)で検討し、運営に反映している。管理者は定期や随時に職員と話し合う機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、休憩時間、場所の確保を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらトレーニング出来る様、職員個々に対して施設内外の研修を受ける機会、確保に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上に努め、勉強会、市内のグループホーム連絡会等を通じて、同業者と交流する機会への参加に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が自分の想いや不安な事等の訴えに対し、傾聴し、常に安心して生活出来る様信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお便りや面会時に利用者の状況を伝えている。家族からの要望や不安に感じている事等に耳を傾け、安心してもらえる様に信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が訴えている思いや状況を見極め、家族に説明、相談をし、利用者の必要とする他のサービスを取り入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材切り、洗濯たたみ、盛付け等利用者の力を発揮出来る様に、それぞれ見極めながら無理なく職員と一緒に楽しみながら一緒に参加して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事等の参加にて、家族と利用者との昔話等の思い出を共有し、大切にしながら家族、職員とで利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人がいつでもホームに来てもらえる様に努めている。 家族の協力を頂きながら、今までの習慣が途切れないように努めている。	入居時の家庭訪問やその後の利用者、家族の話から、今までの生活を把握している。利用者の昔馴染みのデパートや店に行ったり、通勤していた電車に乗ったりしている。今も訪ねて来てくれる友人がいて、大切に支援している。年賀状を買いに行き書いて出す支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその日の体調、状況を把握しながらテーブルを囲み、職員と利用者同士と一緒に参加出来、楽しく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所された後も状況に応じて家族からの相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との話の中から、これまでの生活してきた状況を把握し、本人の思いや家族からの要望など含め、利用者にとって良い状態を検討している。	利用者とは、会話だけでなく、表情やしぐさなどを含めて意思の疎通はできており、朝起きる時間、食事の時間、入浴の回数など、すべて意向や思いに沿った暮らしになるような支援を心がけている。	今回の家族アンケートで、一部利用者の意向に沿っていないケースがある、との声があった。職員全員の課題として検討し、利用者の意向に沿った支援を行うことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族の面会時の会話の中から、今までの生活の様子、家族との関係など把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のその日の状態を見極めながら、個々の力を発揮できる場所を提供し、安心して過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化、気づきや情報を職員で共有し、ミーティングや申送り、会議等で話し合い、利用者に沿った介護計画を作成している。	初回の介護計画は、入所後1か月の利用者の様子観察のあと、職員と計画作成者がモニタリングして、担当者会議を開いて作成してる。以後も期間ごとにこの過程を繰り返して計画を見直し、家族に説明して意見を聞いて同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を把握し、職員間の情報を共有する事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりその時々生まれるニーズに対し、必要なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の行事祭りや保育園との交流、歌体操のボランティア訪問との交流も活発に継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の訴えや家族の希望に沿うように、かかりつけでの医療がスムーズに受けられるように連携を図っている。	入居契約時、本人や家族の意向を尊重してかかりつけ医を決めている。現在は殆どの利用者が事業所の協力医の訪問診療を月2回受診し、口腔ケアのために、歯科も毎週1回は受診している。他科(眼科、皮膚科など)の受診には家族が同行し、結果を必ず報告してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人ひとりの利用者との日常の関わりの中でとらえた情報や日々の心身状態を把握し、看護師訪問時に報告したり、電話にて相談し、適切な看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が早く退院出来る様、病院との情報交換や相談に努め、退院後も相談や情報交換を常に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階より家族と終末期のあり方について話し合い、理解し、事業所で出来る事を十分説明している。また、いつでも主治医と連絡が取れるよう連携を図りながら支援をしている。	重要事項説明書に、利用者や家族の最大の関心事である「重度化対応及び看取りに関する指針」を記載し、職員研修も実施して周知している。家族の要望なども聞き、家族やかかりつけ医及び事業所の方針が一致すれば、事業所で看取り介護を実施していて、家族から感謝されている。過去に10数例の看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の日々の変化等職員が把握し、情報を共有している。また、研修を行い、急変や事故発生時に備え、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な自主訓練を実施。訓練後には反省会をし、気付き、新しい方法、次回に向けての取組み等を確認している。	職員の意識の向上のため、1か月に1回は自主訓練を実施し、反省会で意見交換している。実際の訓練としては、各種非常災害を想定し、利用者と共に年2回の避難訓練を実施している。しかし、近隣住民の参加は得られていない。	夜間想定避難訓練には、近隣住民の協力が必要である。近隣の自治会長や有力者と話し合い、どのような援助が必要かを検討して、訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格、個性を尊重し、理解して頂けるような言葉掛けに努めている。また、プライバシーを尊重する対応を行っている。	利用者の殆どが職員より年上であり、ケアのキーワードでもある「尊厳」の気持ちで利用者に接するよう徹底している。トイレ誘導、入浴介助などで不適切な対応があれば、職員間で指摘し合うようなチームワークも育ちつつある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を決定出来る様、話を傾聴し、生きがいが持てるよう把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調を大切にし、どのように過ごしたいか、本人の希望に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりの体調や、季節に応じ、本人らしい服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や能力に応じて、出来る範囲で職員と一緒に準備や片付けをしている。また、食事が楽しみになるよう支援を行っている。	朝食は、夜勤明けの職員と早出の職員が協力して提供し、昼食と夕食は、業者から届くクックチル食で対応している。週1回、食事レクレーションとして、利用者の好みに合わせた献立で、参加できる利用者と共に食材の買い出しから調理までを行っている。月1回の外食や各フロア持ち寄りのバイキング、好みの料理の出前、弁当など変化をつけて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり1人の状態や習慣に応じて、食べる量、栄養バランスを考え、食事摂取、水分補給が出来る様支援している。状態に応じてゼリー等形態を変えて水分の提供を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の出来る力、口腔状態に応じて声掛け、見守り、介助を行っている。清潔保持出来る様支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄習慣、排泄時間を把握し、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。	居室内にトイレがあるため、厳密な排泄パターンの把握は難しいが、それでも利用者の素振り(急にそわそわするなど)や居室に戻る行動などで、ほぼ排泄パターンは把握できており、他の人にわからないように声掛けをしてトイレ誘導を行っている。夜間もほぼ2時間おきに声掛けをして、利用者が嫌がる場合は睡眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排泄間隔を把握し、水分補給や運動へ働きかけで個々に応じて便秘にならないよう注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている利用者は、毎日入浴出来るようにしている。穏やかに入浴出来る様に、1人ひとりに沿った支援をしている。	入浴時間帯は午後で、基本的には隔日ごとの入浴を支援しているが、毎日入浴を希望する利用者や、週1～2日で良いという人もいる。夏場は汗をかくので、シャワー浴も頻繁に行っている。いずれも利用者が最もリラックスする時なので、楽しい会話を心掛け、利用者の本音(思いや希望)を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を妨げないように配慮している。個々の利用者の状態に応じて、必要であれば適度に休息を促し、休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し、変化があれば情報共有し、送付をしている。服薬後の状態等、様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が出来る事を把握し、それぞれの役割を考え、張り合いや達成感に喜びを感じられる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の声掛けをし、外出している。利用者が行きたい場所を聞き、希望に添えるよう企画を考え、遠出する機会を設けている。	事業所に閉じこもりがちな利用者もいるので、散歩や買い物は重視している。希望者の行きたい所を優先しているが、家族やボランティアの協力を得て、大泉緑地、天王寺動物園、関西国際空港などに遠出もしている。誕生日の希望で、外食やカラオケ店に職員と1対1で出掛けて楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される利用者には家族の協力を得て所持して頂いている。外出時も希望があれば商品を購入し、支払いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取りたいと希望があれば、携帯で会話して頂いたり、本人の要望を家族にお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において、利用者が心地良く過ごせる様配慮している。話題の提供や楽しくコミュニケーション出来る環境作りに努めている。	食堂兼リビングルームは広くて明るく、利用者が心地良く過ごせるよう配慮している。大きな机を横並びに配置して、食事や利用者同士の語り合いも見られる。季節感を感じるよう、その月のタペストリーや利用者がリラックスしている写真や習字などの作品が壁面に貼られ、生活感も感じられる。ベランダも広く、楽しくコミュニケーションできる環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「楽しく過ごしたい」「落ち着きたい」等個々の利用者のその時々気持ちを汲み取った上での居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置する等で、これまでの生活歴のまま過ごせるような環境作りに努めている。	居室には、トイレやミニキッチンがついている。各利用者は家族の支援を受けて、これまでの生活の延長感を感じるよう、また少しでも長く自立できるよう、使い慣れた家具や日用品を持ち込み、落ち着いて生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険がない様に見守りながら、出来る事をして頂き、生活機能の向上に努めている。		